

## 東京湾再生官民連携フォーラム 令和3年度 第2回企画運営委員会 議事メモ

1. 開催日時 令和元3年10月11日(月)、13:00～14:30
2. 開催場所 リモート形式 (Zoom 利用) による委員会開催  
事務局 Zoom 運営・みなと総研3F 会議室

### 3. 議事次第

#### 《審議事項》

- (1) 東京湾再生官民連携フォーラム総会について

#### 《報告事項》

- (1) 令和3年度PT活動報告
- (2) 第三期に向けてのWG会議報告
- (3) 神奈川大学 社会連携センター パートナーシップ協定締結について
- (4) その他：東京湾の日 川柳&photo コンテス 結果報告

### 4. 出席者 (敬称略)

來生議長、中村委員、古川委員、岡田委員、細川委員、斉藤委員、田久保委員、木村委員、田中代理、松村代理、藤井委員、中原委員、行木委員、小林代理、山井委員、市原委員、樋口委員、石塚代理、米沢代理、関委員、石井委員、二宮委員、杉田代理、市川委員、小林委員、細川(事務局)26名出席

### 5. 議事概要

#### 5-1 開会

- (1) 事務局：資料の確認
- (2) 開会挨拶(議長)：早速、始めます。

#### 5-2 議事

##### 《審議事項》

#### (1) 東京湾再生官民連携フォーラム総会について

##### 【決定事項】

令和3年度 東京湾再生官民連携フォーラム総会議事次第(案)は承認された。

(事務局)：審議資料1説明

令和2年度 第2回企画運営委員会において、開催日が承認され、令和3年度 第1回企画運営委員会において、開催方法について承認されている。本日は令和3年度 通常総会の議事次第(案)について審

議をおねがいする。

#### 【審議経過】

來生議長： 特にご質問がないようですので、ご承認いただいたこととする。

#### 《報告事項》

##### (1) PT活動報告 令和3年度の活動計画について (各PT長)

**モニタリング推進 PT (古川 PT 長):** 資料 2-4 説明

最近の動きということでご報告する。今年の東京湾環境一斉調査は、9/16 予定通り、実施された。生物調査と啓発イベント調査については、一斉調査では実施しないが、報告書には記載するという事になっている。現在、東京湾再生推進会議からの資料提出のメールが回ってきて、関連の団体等へ回答をお願いしている状況。

調査結果は、「江戸前勉強会」で、モニタリング PT 活動の一環として、他の PT との連携を図りながら検討。10/7 から二週間に 1 回開催する予定なのでご参加ください。

**指標活用 PT (岡田 PT 長):** 資料 2-3-1、2-3-2 説明

指標活用 PT は 2 つの WG の下で、実施している。ひとつは市民データ WG、もう一つはデータ整理・評価 WG。市民データ WG グループは、メールを通じて意思の疎通を図っている。現状は、アンケートを実施して、その結果を回収整理中。出来上がればポスター等を作り、フォーラム HP に公開する。データ整理・評価 WG は、中間評価をとりまとめ、最終報告に向けて 10/16 オンラインでキックオフ会議を行う。その中で、課題の整理、最終報告に向けて今後準備をしていく。

**江戸前ブランド育成 PT (牧野 PT 長 / 事務局が代理で報告):** 資料 2-5 説明

江戸前ブランド PT 活動は、東京湾の水産物についてブランド育成するために、「まずは、食べてもらう」という体験イベントを実施している。コロナ禍で、オンラインでの活動を行っている。「江戸前漁師を元気にする会」、「横須賀海市民会議」などの PT メンバーが活動されている。また食べるための魚のさばき方教室をオンラインで紹介している。これらの活動を通して資料を蓄積して、今後、PT の成果としてまとめていく。機が熟したら、政策提案に活用していきたい。

**東京湾大感謝祭 PT (木村 PT 長) / 事務局が代理で報告):** 資料 2-1 説明

会員のみなさへという田久保実行委員長のメッセージをいただいた。今まで 10 万人規模に育ててきた東京湾大感謝祭は、昨年もリアル開催が中止で、引き続き今年もオンライン開催になった。特別企画として、「トークショー」そして、「東京湾の日であることを記念した川柳&photo コンテスの表彰」を合わせて開催するので「是非みなさんご参加ください」との熱い気持ちのメッセージ。

10/16(土)開催するライブ配信プログラムの流れは、「スペシャルトーク」として、東京湾の地域循環共生圏をテーマに中井審議官、高田技術総括審議官とのトークがある。続いて、「東京湾再生第三期に向けたアクショントーク」ということで各 PT からの提案、そして「ワンダートーク」の関東整備局・石橋副局長、木村 PT 長、田久保実行委員長、榊アナウンサーのセッションを予定している。その後、「海の環境再生賞、東京湾の日川柳&photo コンテスの表彰式」などが予定されている。

田久保実行委員長、追加のメッセージがあればお願いしたい。

#### 田久保委員(東京湾大感謝祭実行委員長)

すでに10/1よりオンライン東京湾大感謝祭始まっているが、10/16の大事な橋ホールライブ配信準備が整っている。その際、ホールに入るには、には、PCR検査、抗原検査が必要となる。

#### 來生議長

プログラムの開始時間をおしえてください。

#### 田久保委員(東京湾大感謝祭実行委員長)

午後1時からの開始。

#### 生き物生息場づくりPT(佐々木PT長/岡田PT長代理が報告)：資料2-2説明

生き物生息場づくりPTは、積極的にオンラインを使い、月に1回～2回程度の頻度で7月、8月、10月、11月のタイミングで会議を実施している。7月は、冬季に実施したマコガレイ産卵場の調査結果について、千葉県水産総合研究所から報告していただき、その調査結果を議論検討した。

8月は、今後の進め方について、関東整備局よりマコガレイ底質改善の工事の進捗状況の紹介について10月は「今後、新たにどのようなことを考えていったらよいか」の再生目標生物ワーキンググループを立ち上げて、その議論を踏まえた検討を行っている。今年度の冬もマコガレイの産卵場の調査実施を決定した。10月までの議論は終了している。

#### 來生議長

各PTへのご質問等ありましたら願する。特にないようですので次に進める。次は、第三期にむけてということで、事務局から願する。

### (2) 第三期に向けてのWG会議報告

(事務局)：資料3説明(資料3-0第三期への提案のポイントとスタンス整理表、資料3-1経過報告、資料3-2、3-2-b東京湾での活動エリア、資料3-3PT長アンケート一覧)

#### <資料3-1経過報告>

令和3年度第1回企画運営委員会に於いて、フォーラムから再生推進会議へ提案するための議論をする「東京湾再生のための行動計画(第三期)検討WG会議」の設置が認められた。

企画運営委員から、來生議長、木村委員、古川委員、行政からは、再生推進会議の海域分科会のみなさま、関東整備局の参加、途中から海保、下水道部も参加いただき、今まで4回の討議をおこなってきた。

提案書としてまだまとめるに至っていないが、「全体の議論の進め方、第二期の反省、第三期に向けての方向性など」共通の理解が醸成しつつある。今後、企画運営委員での意見、会員からのご意見を反映させて、具体的な文章につめていきたい。出来上がったら、企画運営委員会に提示する。

資料3-1は第1回～第4回までのワーキング会議の様子をまとめた。第1回では、ブレインストーミングの実施、意見交換を自由に行い、新しい視点とかアイデアを出しての議論検討を図った。ブレインストーミングでは、キャッチボールでキーワードが出てくるので、それを大事に扱いながら、全体として、それらをどう

見ていくのかの整理が必要になる。

第2回 WG 会議においては、第1回 WG 会議で出てきたキーワードをどんな風につなげていったら良いのか案を出しながら議論した。合わせて参考資料として、古川委員から 事前に「コンセプトペーパー」が提出された。またさらに「江戸前勉強会」の立ち上げ企画が提示された。

第2回会議では、PT 長へのアンケートの実施が決まった。モニタリングの分科会の様子を海上保安庁から、陸域分科会の様子を水局下水道部からお聞きすることになった。

第3回会議では、下水道部 流域管理官付流域下水道計画調整官 西様、海上保安庁技術調整室長 難波江様 大洋調査官 中村様にもご参加いただき各分科会がどのような活動しているのか勉強した。それぞれの行政部局で、「再生に向けた努力」が集積されていることを伺った。資料3-3にあるPT長アンケートの結果をご紹介します。その中の大事な言葉を会議で議論した。さらに、関東地方整備局さまからは、改善に向けたプロジェクトが、東京湾内のいろいろな場所で展開されている「地図」が紹介された。これがきっかけとなり、さらに第二期の成果の整理に結び付けるような「重ね合わせ地図の作成」が議論された。

次に報告提案のスタンスが議論された。「一定成果が上がったが、十分でない」ということで「まとめ」が作成できる、或いは、「第三期の提案の目標をどうするのか、全体をドラスチックに変えるのか、目標への実現の仕方の変更、個別の各論をどこまでおこなうのか」などが議論された。

第4回では、まとめ方について、「PT長アンケート」のキーワードや視点を使い、全体をシナリオ化する手法を議論した。ストーリー化するためには、來生議長から提案いただいた「全体の整理図」を活用する、また港湾局からいただいた「論点のメモ」を参考とする。抽出キーワードの関連性を踏まえた整理をするような作業方針を確認した。

#### <資料3-2、3-2-b説明>

第二期では「重点エリアのアピールポイントの地図」が行動計画で紹介されている。現実の第二期の活動はそれ以上に様々あり、いろいろな活動をプロットしたのが、資料3-2、3-2-bの地図になる。

資料3-2は再生推進会議の幹事会で作成した地図。アピールポイント7カ所に加えて、モニタリングポストなどの取り組み、下水道の取り組み、モニタリング分科会の活動、それぞれの自治体のプロジェクト活動も含めて実施場所に印をつけている。一枚の地図に載せると、非常にたくさんの地点でいろいろなことが行われているのが見て取れる。

資料3-2-bは、各PTが良く訪れるサイト・調査のサイト・活動展開場所をプロットしている。窓PT・モニタリングのPTなども交えて、市民活動、環境社会教育的な活動が各地で行われている。行政が作成した3-2地図に比べると、少ないが、補完的で、行政とはまた違った視点で実施されていることがわかる。行政が持っているツールと少し離れたいろいろな活動が市民活動、市民と行政の協働活動の中で展開されていることがこの二つの地図で分かる。

第二期の成果は、さまざまな視点で記述されるが、赤潮対策、貧酸素対策が大事ということで目標立ててそのための努力というのは、行政の行動計画第二期の中では重要なテーマとして扱われる。そういった行政の立てた目標と達成度で第二期の総括を行う仕方であれば、フォーラムの活動のように、行政が目標立てなかった、あるいは目標立てから抜けている、目標立てをさらに発展させているなど、いろいろな視点から活動が少しずつ始まっているようにも見て取ることができる。地図に落とすということではいろいろなことが分かり始める。情報量の多い地図がワーキングの活動議論を通じてつくることができた。

#### <資料3-3説明>

資料3-3はPT長アンケートを一覧表にしている。各PTの回答がこれでわかる。PT長がどんな印象を持って

いるのか、相互に見比べることができる。回答をお寄せいただいた PT 長へのある種、情報のフィードバックとしても使っていただければと思う。

アンケートは、Q1～Q3 までの大きく三つのパートに分かれる。さらに Q1～Q3 の中にそれぞれ枝番がある。Q1のパートは「PT活動の成果・結果など」の記載、Q2のパートは、「第二期の結果、反省をフォーラムあるは PTの活動視点」から記載する質問群。Q3のパートは、「三期に向けた意見や視点、提案」を記載する質問群である。

具体的に見ていくと、Q1のパートは、「複数の現場を横につなげる工夫を教えてください」、Q1-10は「PT活動の継続的な活動の工夫を教えてください」等の設問について記載していただいた。PTの継続的な活動には、PT長は大変ご苦労されている。アンケート表ではその課題と解決策を横並びに見ていただける。

Q2パートでは、Q2-3、「最初は、こんな活動しようとして始めたが、現場に入って色々やってみると、こんなことに気が付いた、こんなことが大事だなというのが見つかった、あるいは、そういう展開ができたことがある場合には記載してください」。Q2-6では、「PTを行う上で、周りの人とどういった関係をもちましたか」、さらに「PTが果たしてきた役割の自慢を書いてください」などを記述してもらっている。

Q3のパートは、第三期の再生計画に向けた意見となる。Q3-6では、『「ある取り組みは、行政として参加しやすかった」という取り組みがある。「その取り組みが何で、そんな風に行政に受け入れ安かったでしょう、」あるいは、「そういう受け取りやすい提案をするためには、どんな工夫をしたら良いでしょう』』と尋ねた。いろいろな回答がある。「行政が受け取りやすいような提案をするのは本旨ではない、行政は受け取りにくくても努力をすべき」、「従来型の枠組みで受け取りやすい提案をする限り、あたらしい行政と民との関係性は築きにくい」などの回答もあった。

さらに、「この10年間社会が大きく変化している。この変化の中で大事なキーワードは何ですか」の設問では、例えば、「脱炭素化」とか「地球温暖化」とか、いろいろな言葉が出てきた。その中でも、大事なものは何ですかという視点では、木村 PT 長は、「優しさ、思いやり、思いやりのための想像力」を提案している。これを踏まえて、「第三期はどんな風にしたら良いのか、あるいは活動のあり方をどうしたら良いのか、それからフォーラム自体のあり方どうしたら良いのか、そして第三期の行動計画の目標に入れる言葉とは、何だろう」という対応についてのご意見を出していただいた。最後に自由記載欄を設けた。

### <資料 3-0 説明>

キーワードを集めいろいろな問題意識、視点をご紹介いただいた。それだけでは、提案にならないので、提案に持っていくポイント、スタンスを少しずつ整理する方法で作業を始めている。

資料 3-0 の左側は、章、節、項の提案書の目次を想定する。黄色く塗りつぶしているのがスタンス、こんな風なスタンスで全体を見ていく。右側には節の内容、ポイントについて書いているが、WG 会議のブレインストーミング、PT 長アンケートでご意見提案をいただいたポイント、視点、キーワードとなる。これを少しずつ文章に近い格好でまとめている。「事実として何があるのか」、「再生計画第二期の成果は何ですか、フォーラム活動成果は何ですか、それはどんな風にまとめたら良いですか」、が第1章にあたる。

第二期のなかでは、第一期に比べて、さまざまな主体が色々な所で色々なことを始めた。大きい活動、小さい活動もある。官、行政と一緒にいったものがあれば民、独自のものもある。いろいろな人が色々始めたというのは、先ほどの地図(資料 3-2、3-2-b)でよく分かると思う。「様々な活動が始まったが、東京湾が劇的に良くなったか」といって、まだまだですね。課題がありそうですね。」というのが第1章のまとめのスタンスになる。

第2章では、第二期と比べて第三期で「どんなことを目指したらいいのか」ということを整理している。第二期の終わり頃、最近の数期間は世の中が大きく変化している。コロナ禍も一つ大きな変化のきっかけになる。さらに社会が変化するばかりではなくて、自然界も動いている。

「最近の台風は規模が大きい、洪水が増え、東京湾の水温の上昇が起きる」など、自然界の変化が起きている。東京湾の新しい展開を考えないといけない。整理した上で、第3章 第三期計画の提案として、3-1、3-2、3-3を章立てしている。それぞれをどのように提案していくか、と言ったことなど「PT 長アンケート」、「來生議長の整理図」などを頼りに、シナリオ化、ストーリー化を考える。

「新しい官民連携の姿」、「より広範な市民関与」、「従来政策のより良い発展のための改善、場合によって劇的な変革が必要」というようなことをまとめてスタンスとして示している。さらに、「官民連携フォーラム自身が、どんな風が変わっていったらいいのか」、いくつか課題を抽出し考える。「持続的な活動のための一層の支援と自己改革の努力が必要」というようなスタンスで考えている。

皆様方の、助言、注意点等を指摘いただければありがたい。

### 來生議長

事務局説明がありましたように、WG 会議を4回実施し、フォーラム PT 長、行政サイドによりいろいろな議論を積み重ねてきている。その間に、PT 長にもアンケートとさせて頂いて色々なご意見を頂いている。活動の目的は、整理すると二つある。

第三期の再生行動計画を取りまとめていくタイミングを踏まえて、「フォーラムの自己評価と将来展望というようなものをどのようにしていくか」という事が一つ、それと同時に「自己評価と将来展望を再生推進会議に向けて積極的に情報発信をする」ことによって、再生推進会議が第三期計画を「まとめ」にあたり、「フォーラムの提案活動してきたことの成果をどのように反映させていただくか」、再生推進会議自身に情報発信をしていくという二つの方法で、二つの目的を重ねながら今まで4回議論してきた。

少なくとも今度の総会までに、今事務局が説明した状況なので、フォーラムとして文章化して皆さんにご承認をいただく段階に至っていない。

それから第三期の行動計画のスケジュールを見ても、今すぐにまとめた文章を、再生推進会議にお出しなくてもいいだろうと考える。その理由は、一つは、フォーラムの中に再生会議のメンバーも入っていただいて情報交換を継続していること、それ自体の意義というのは非常に大きくて、会議討議のプロセスを通して、フォーラムの意識もその間に伝わる。今までの活動についての改めての認識をしていただくことができ、同時に第三期期の行動計画に反映していただける。

フォーラムの内部手続きは、今回の総会において、基本的に資料 3-0 を中心にご説明させて頂く。今後のとりまとめについては、議長一任していただくということでご承認をいただきたい。それを前提に文章を最終的にするためには、企画運営委員会で承認していただく必要がある。その間、企画運営委員会の委員とは、「まとめ」の文章に向けての情報交換を繰り返しながら、最終的にフォーラムとしての第三期行動計画へのメッセージというものを取りまとめていく、ということが現在、事務局と議長 來生で話し合っている手続きになる。

この点も含めてみなさまのご発言をお願いします。WG 会議にご出席されている木村委員、古川委員に補足説明、ご意見をお願いします。

### 木村委員

事務局のまとめ説明に異論はない。議長の手続きの仕方でも進めいただければと思う。

### 古川委員

特段の今の時点で言わなければいけないことは、ないかなと思っている。

ただ、第二期でフォーラムができて、この後さらにこの活動を東京湾再生へと実現してくためには、企画運営委員会で集まる方以外に、東京湾の周りにいる方々に少しでも参画して頂けるような取り組みが必要と思う。

そのため、今回の意見集約というところでもある「誰かが一部の人が汗をかいてまとめる」ということではなくて、來生議長の発言の中にあるよう、様々な機会を使って企画運営委員会またフォーラムのメンバーの方々からの意見を吸い上げていただけたらと思っている。

繰り返しなるが、モニタリング PT では、「江戸前勉強会」と言う名前を使って、参加型で皆がご意見を出し合ってまとめて行くことにもチャレンジしているので、ご興味のある方は是非ご参加いただければと思う。

#### 來生議長

他にご意見はいかがでしょう。海上保安庁さん、「1月ごろのタイミングで、ある程度の方向性が見えれば」ということで理解しているが、「どうですか」。

#### 松村代理（海上保安庁）

今日はフォーラムの方のワーキングの活動状況、それからの第三期に向けた提言のスケジュールについて先ほどご説明頂きまして、ありがとうございます。再生推進会議におきましては、第三期に向けて11月ぐらいから方針案の検討に入っていくスケジュールで考えている。

フォーラムの方の提案は、最終的には今年度末と先程お聞きしたが、WG 会議参画しているので議長からご説明があるように WG 会議で話されている内容を踏まえて方針案の検討も着手でき、スケジュールで問題ないと考えている。

#### 來生議長

事務局は非常に多様な意見を集約していくということで苦労も多いが、多様性を持っているのが東京湾の特徴かと思う。多様性を生かす形で取りまとめていくことが大事になる。今説明したような形で手続きを運び、10月16日総会に進めていく。

次の議題、神奈川大学 社会連携センター パートナーシップ協定をお願いします。

### (3) 神奈川大学 社会連携センター パートナーシップ協定締結について

(事務局)：資料-4-2 説明

神奈川大学が横浜 MM 地区に新しいキャンパスを造った。設置にあたり神奈川大学はパートナーシップ制度を設けている。第三期に向けた議論、PT 長意見の中にも、若い方の積極的なフォーラム活動への関与、参加を促す議論がある。パートナーシップ協定により、大学とフォーラム活動と結びつける、良い機会となる。神奈川大学が持つ仕組みにフォーラムも参画して、神奈川大学の学生さんなどに東京湾について考えていただく、あるいは東京湾の改善にむけてフォーラム活動に興味を持っていただく、というきっかけにしたい。具体的な活動については、今後の検討になるが、パートナーシップの入会申し込み図りたい。

#### 來生議長

このパートナーシップの話は、木村委員のところに話があったのをフォーラムにつないでいただいた。今後いろいろな大学とこういう形で連携を図る第一歩として位置づけた提案になる。ご意見をお願いします。

### 古川委員

神奈川大学のパートナーシップへの参加は大いに進めていただきたい。神大側もフォーラム会員となっていたくようにお願いしてほしい。

### 事務局

今の所、フォーラム会員参加のお声がけはおこなっていません。まずは、神奈川大学の制度がフォーラムに合うか打合せ・ヒアリングし今回の提案となった。

### 古川委員

折角の機会なので、会員への参加のお願いを検討してください。

### 來生議長

別件で、神奈川大学 研究所の設立に相談にのっている。議長からもフォーラム会員参加をお願いしてみる。この件は進めるということにする。その他で川柳と photo(写真)のコンテストに関してこれも事務局からお願いする。

#### (4) その他：東京湾の日 川柳&photo コンテスト 結果報告

(事務局)：資料 5-1、5-2、5-3 説明

東京湾に関連する川柳と photo を募集し、このたび選考が整ったので報告する。募集の要項は資料 5-3 の通り。結果については、資料 5-1、5-2。

川柳の応募総数は、244 点、選考の審査委員は稲田様、來生様、大浦様。審査基準として、「東京湾のテーマは表現されているか」、などを設けた。東京湾の日、大賞 1 点、秀作 3 点、佳作 6 点が選句された。特に、企画運営委員の皆様には二次選考のお手伝いをしていただいた。お手をかけたが、大変助かり感謝している。大賞の方は、10 月 16 日(土)、東京湾大感謝祭での表彰を予定している。

資料 5-2 Photo コンテストも同様に、応募総数 34 点、審査員は田久保様、木村様、岡島様。「東京湾の日をイメージする構図、東京湾を美しく豊かな海で再生する、持続可能な環境保護活動の必要性を感じる」というような選考基準で選考した。大賞 1 点、佳作 3 点が選考された。Photo も東京湾大感謝祭で表彰式の様子をライブ配信する。皆様のご協力に大変感謝申し上げます。審査員の皆様に感謝する。

川柳の審査委員長を紹介する。稲田眸子・本名(勉)は、俳句を勉強され指導している方で、俳誌「少年」を創刊・主宰しておられる。海に関係する仕事をして建設会社で働いていた。一方で俳句について、高度な嗜みを持ち、この分野においては、高名な方。

### 來生議長

本日の議題は以上となるが、事務局、何かやり残したことはあるか？

### 事務局

先ほどは資料の 3-2-b の地図中で、PT の活動箇所を記載しているが、見落としがあればご連絡おねがしい。また自治体活動で、市民活動、企業の地先海域での活動などお気づきの点があれば、ご協力をお願いしたい。第二期の東京湾に関するさまざまな活動の大きな見取り図みたいなものに作っていただくと希望している。



### 來生議長

情報を分かりやすく発表して、気楽にその情報に接することができるのは大事。自治体の皆様にも情報をお願いする。

### 木村委員

地図の話については、自治体の活動もあればさらに充実したものになるし、同じ地図の中に、多くの活動を入れ込もうとすると大変煩雑になってしまう。無理かもしれませんが、レイヤーのように重ねられるようにしておけば、沢山の情報が入る。また、例えば、「清掃活動箇所」だとか「アマモ場の再生箇所」、「干潟を作ろうとしている、あるいは干潟を作った箇所」、竹芝などが該当する。横浜市の事業として「ダッシュ海岸」もある意味掲載しても構わないのかもしれない。そういったこともあれば、さらに充実したものになるので協力を求めてもよろしいと思う。

### 來生議長

どうもありがとうございます。大変貴重なご指摘で、色々な形で紹介をするという活動自体がフォーラムの役割と思う。

### 5-3 閉会

### 來生議長

他に何かありますか。特になければ本日、第2回企画委員会これで終了ということにさせていただきます。

### 議長・事務局

「本日はお忙しい中どうもありがとうございました」。